

「枚方市上下水道ビジョン（素案）」に対する  
パブリックコメントの実施結果について

資料 6

- 【募集期間】 平成 24 年 9 月 6 日（木）～10 月 4 日（木）  
 【提出者数】 4 人（市内在住 3 人）  
 【件 数】 14 件  
 【提出方法】 市ホームページ：2 人 回収箱：2 人

(1) 「枚方市上下水道ビジョン（素案）」に対するご意見

●水道編に対するもの

ページ	章・節	ご意見の要旨	枚方市の考え方
15	第 2 章 第 4 節	鉛管がこれほど使われているとは思わなかった。人口を増加させるためにも水質アップは大切である。	鉛管は加工が容易なため、平成 63 年度以前は、給水管の工事に広く使われていました。 枚方市では、お客さまが管理されている鉛製給水管について、配水管の更新の際にあわせて取替えを行い、順次解消に努めています。
21	第 2 章 第 7 節	平成 22 年度から 23 年度にかけて、供給原価はあまり変化していないのに、給水原価は 140 円から 146 円に何故大幅にアップするのか。 安くておいしい水が多くなければ、人も企業も集まらないと思う。	平成 23 年度の給水原価の増加は、受水費、退職給与費の臨時的な増加や、減価償却費が増加したことが原因です。
23	第 2 章 第 7 節	職員数の推移、6 年間で 33 名も減っているが、命の水を作り市民へ配るのに大丈夫なのか。	職員の削減については、「枚方市構造改革アクションプラン」に即し取り組んできたもので、業務の効率化を図りつつ行っているものです。 今後も安全で安心して飲める良質な水を供給しつつ、職員配置の適正化に努めます。
24 25	第 3 章 第 1 節	将来人口、有収水量とも将来予測が減少している。 市民にもっと水を使うように宣伝するべき。	将来人口の減少予測により、有収水量も減少が予測されます。本市の水道水は、琵琶湖を水源とする淀川の水を原水としており、限られた水源なので大切に使う必要があります。 今後も、水道水を大切に利用していただけるよう、周知に努めます。
33	第 5 章 第 2 節	水道事業は、決算において利益を出し、資金についても十分に確保されているが、老朽化施設の更新があまり進んでいないようだ。 老朽化した施設をどの様に更新していくのか、計画がはっきりしていない。	老朽化施設の更新など水道施設の整備については、「上下水道ビジョン」に基づく実施計画の役割として「水道施設整備基本計画」の策定を予定しており、この計画において具体的な整備計画をお示しします。

●下水道編に対するもの

頁数	章・節	ご意見の要旨	枚方市の考え方
49	第3章 第3節	水道編には水道事業に携わる職員数の推移が示されている。下水道事業に携わる職員数はどうなっているのか。減っているのか。増えているのか。	下水道編に【職員数の推移（下水道部）】を掲載しており、下水道事業に携わる職員数は減っています。
48 49	第3章 第3節	下水道編の下水道事業における投資額や職員数がどんどん減っている中で浸水対策や耐震化などの残課題が多いのが心配。経営は大事だと思うが、市民が安心して暮らせる行政活動を願う。	「上下水道ビジョン」の内容を踏まえ、その実施計画的な役割を担うものとして、「下水道事業経営計画」の策定も進めています。
全体	全体	宮之阪地区ではイズミヤ商店街も活気があり、人が集まる場所だが、溝谷川が住宅地を流れ、ポンプ場を經由して天野川に流れている。最近の大雨でこの川の水位がどんどん上がり、あふれそうなので、このビジョンに基づいたしっかりとした整備を早急に進めて欲しい。	この中で、雨水整備・浸水対策の基本方向について、具体的内容を整理しています。 宮之阪地域では、溝谷川ポンプ場の排水能力をアップするなどの浸水対策事業を進める予定です。

(2) その他に対するご意見

ご意見の要旨	枚方市の考え方
<p>大雨により被害がいつも出ている。 川が狭いために被害が発生しているのであれば、川を深くして雨を集めて淀川に流したら良いと思う。</p>	<p>川幅が狭いために浸水被害が発生している場合の対策として、河床を深くするなどの断面確保に努めていますが、河床の高さに制限があり、川を深く改修できない地域もあります。 この場合には、バイパスルートなどによる排水能力の確保や雨水貯留槽などにより、一時に川に流れる雨水を制限するなどの施策にも取り組んでいます。 今後も、地域の特性に応じた浸水対策を進めます。</p>
<p>広報ひらかた 10月号の市政ニュース欄に「下水道プロジェクトチームで調査と対応策を検討し、地域の特性に応じた対策を進める」と記載がある。 きちんとまとめて公表して欲しい。</p>	<p>現在、市域の広範囲で発生した浸水被害を受け、プロジェクトチームで調査・浸水対策の検討を進めており、今年度内に改善が可能な個所については、小規模工事等により対応を行い、来年度雨季までに工事を実施するための調査設計委託の準備も進めています。</p>
<p>淀川に排水するポンプ場の運転管理について、排水ポンプの運転・停止の基準のうち、“排出側（淀川側）の水位高により停止する”という基準が誤って適用されていると思う。 淀川本流が破堤する恐れがある水位では、当然、排水ポンプを停止すべきだが、それよりはるかに低い水位で排水ポンプを停止するのは明らかな間違いだ。 (8月14日の夜明け頃、豪雨が収まってきた時点で藤本川ポンプ場のエンジンポンプは停止したままで7時前に運転再開した。)</p>	<p>藤本川ポンプ場の排水ポンプの運転・停止の基準は藤本川からの流入水位と、本市が設置した養父西町にある水位計の水位と、国土交通省が設置している枚方市桜町地先の「テレメーター水位ひらかた」の淀川水位を見ながら監視を行っています。 ご指摘されている排出側（淀川側）の水位高により本市のポンプを停止するという基準ですが、本市では淀川本流の水位によってポンプを停止するという基準は設けておりません。 8月14日の豪雨の際、藤本川の雨水排除は自然吐けにより対応しておりましたが、明け方の落雷による停電の影響で、藤本川ポンプ場の水位情報が北部別館等に伝送されないというトラブルが発生した為、「テレメーター水位ひらかた」の淀川水位情報だけで排水ポンプの運転・停止の判断をしており、AM7:00頃よりポンプ運転を行いました。</p>

ご意見の要旨	枚方市の考え方
<p>財政基盤が厳しい中で、当面の対策、中長期的対策を進めていくために効果対コスト比が高いものを選択する必要がある。</p> <p>①対策案の選択肢を挙げ、②その効果対コスト比を比較し、優先順位を決め、③スケジュールを設定することになる。</p> <p>対策案については、水害被害地域関係団体の意見を反映して欲しい。</p>	<p>現在、策定を進めています「上下水道ビジョン」を踏まえ、その実施計画的な役割を担うものとして、「下水道事業経営計画」の策定も進めています。</p> <p>この中で、雨水整備・浸水対策の基本方向について、具体的内容を整理して公表する予定です。</p>
<p>各施策選択肢の効果を評価するため、適当なレベルのシミュレーション評価と経験と勘による判断を組み合わせるのが良い</p>	
<p>下水道は水道の使用量で料金を請求しているが、なぜメーターを付けていないのか。</p>	<p>水道と下水道の使用量は、ほぼ同量であるものとして、下水道使用料を請求しています。</p> <p>なお、お客さま負担にはなりますが、下水道のメーターを付けることは可能です。</p>